資料　都-3②

（案）

熊本駅新幹線口駅前広場
再整備計画

令和６年〇月

熊本市

はじめに

熊本駅新幹線口駅前広場は、九州新幹線全線開業に合わせ熊本駅西側に新設された駅前広場です。平成17年に策定された熊本駅周辺地域整備基本計画では「新しい都市生活を創造する場」として、平成19年に策定された熊本駅周辺地域都市空間デザインガイドでは「出会いの景」の一部を構成する空間として位置付けられ、「駅と街の間をゆるやかにつなぐ半屋外の公園のような駅前広場」をデザインコンセプトとして整備されました。

供用開始以降、周辺地域はインフラ整備及び民間開発が進み、熊本駅乗車人員・歩行者通行量・居住人口の増加や地価の上昇等目覚ましい発展を遂げてきましたが、一方で本駅前広場では、計画値を大きく超える一般車の流入により渋滞の発生が見られるようになり、これにバス・タクシーが巻き込まれ、大きく利便性が低下していきました。

また、ロータリー内に設けられたバス待機場での危険な乗降や、広場北西側のバス乗降場から歩道を介さず直接駅舎に向かう徒歩横断など危険な事象が頻発するようになりました。

これまで、中央の自動車整理場の駐車料金の値上げや一般車乗降場の増設、案内の追加、交通誘導員の配置等の対策をとってきましたが、渋滞及び危険事象の解消に至らなかったため、本駅前広場の全面リニューアルを行う必要があると考え「熊本駅新幹線口駅前広場再整備計画」を策定しました。

熊本駅周辺地域整備基本計画
（平成17年6月）

熊本駅周辺都市空間デザインガイド
（平成19年7月）

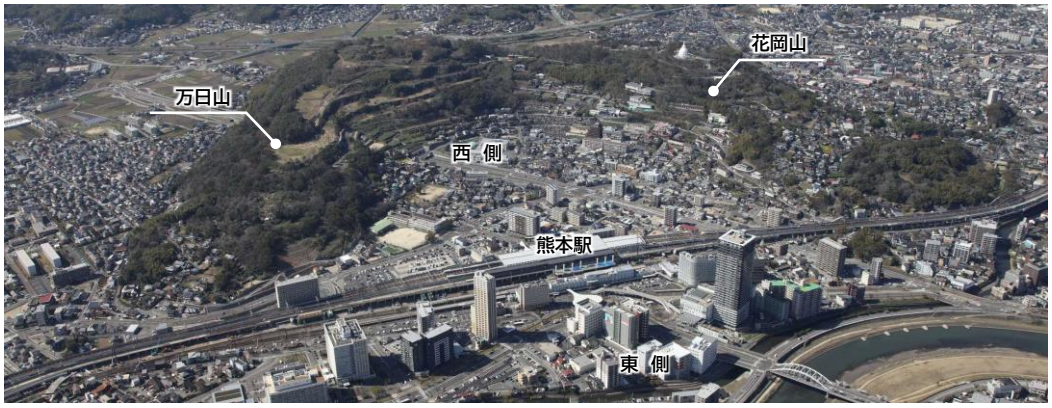
＜熊本駅新幹線口駅前広場デザインコンセプト＞
駅と街の間をゆるやかにつなぐ半屋外の公園のような駅前広場

渋滞の発生による利便性の低下
危険事象の発生

熊本駅新幹線口駅前広場再整備計画

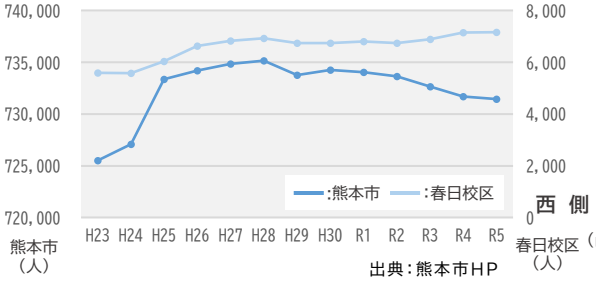
Ⅰ 駅周辺の変化及び駅前広場の利用状況

熊本駅周辺では、平成２３年の新幹線口駅前広場供用後、白川口駅前広場やアミュプラザくまもと等、様々な施設の整備が進み、春日校区の人口や熊本駅周辺の地価は増加傾向にあります。



春日校区人口の状況

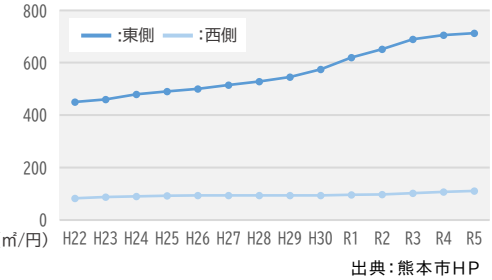
春日校区人口は増加傾向にあり、令和５年では7,169人となっています。



出典：熊本市ＨＰ

熊本駅周辺の地価の推移

熊本駅周辺の地価は東西共に増加傾向にあります。

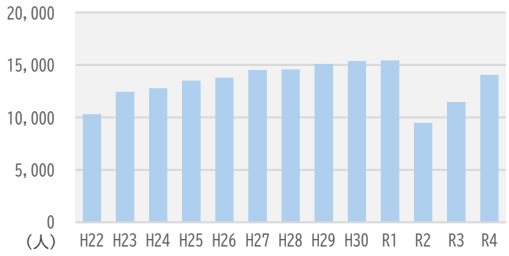


出典：熊本市ＨＰ

また、熊本駅の一日あたりの乗車人員、駅前広場歩行者通行量はコロナ禍で一度大きく減りはしたものの、全体として増加傾向にあります。

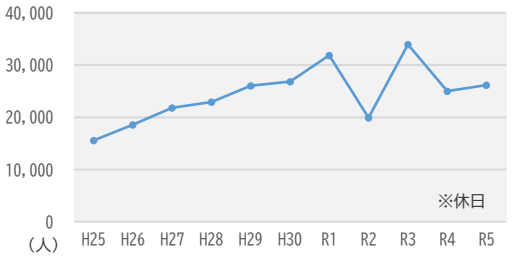
JR熊本駅までの交通手段のうち自動車が占める割合は平成９年時点で3.6％でしたが、平成２４年には13.5％と、大幅に増加しており、本駅前広場にも計画値を大きく上回る一般車の利用が生じるようになったほか、一般車整理場の長時間利用も発生するようになりました。

熊本駅乗車人員の状況



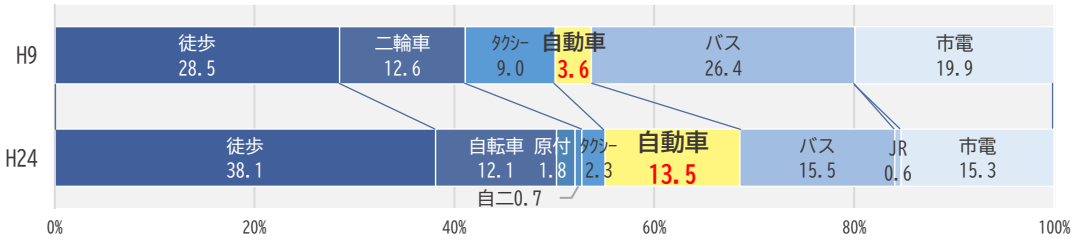
出典：熊本市HP、JR九州HP

駅前広場一日あたりの歩行者通行量の状況



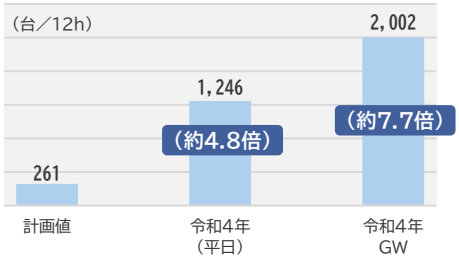
出典：令和５年度商店街通行量調査

JR熊本駅端末トリップ構成比（駅までの交通手段の割合）



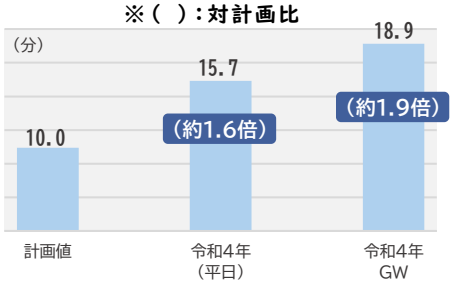
出典：各年パーソントリップ調査結果

一般車の広場利用台数
※（ ）：対計画比



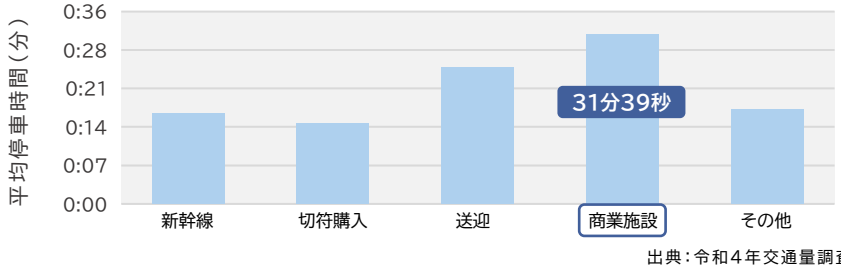
出典：令和４年交通量調査

一般車整理場の平均駐車時間
※（ ）：対計画比



出典：令和４年交通量調査

一般車整理場の利用目的別平均停車時間



出典：令和４年交通量調査

2 新幹線口駅前広場の問題点

熊本駅新幹線口駅前広場では、渋滞の発生、バス・タクシーの運行阻害、危険な乗降等の問題が発生しており、その要因は次のとおりです。

①渋滞発生の要因

〇計画値を大きく超える一般車の流入、一般車乗降場の不足
〇一般車の長時間駐停車

②団体バス、タクシーの運行阻害の要因

〇 一般車・バス・タクシーの動線が混在

③危険な乗降等の要因

〇 団体バス乗降場の不足、駅舎から団体バス乗降場までの距離（遠さ）

3 再整備の考え方

再整備計画の策定にあたっては、これまでに実施した広場利用者アンケート調査や事業者ヒアリング、令和５年度に実施した熊本駅新幹線口駅前広場改修に関するワークショップ（計３回）や令和６年度に実施した熊本駅新幹線口再整備案に関するアンケートでいただいたご意見（声）を参考にしております。

◆アンケート
令和２年度 ＷＥＢアンケート：1,618件
令和４年度 利用者アンケート：　349件
令和６年度 再整備案に関する
アンケート：1,619件

◆ワークショップ
令和５年１１月　第１回開催
令和５年１２月　第２・３回開催

市民のみなさんの 声 を踏まえて作成

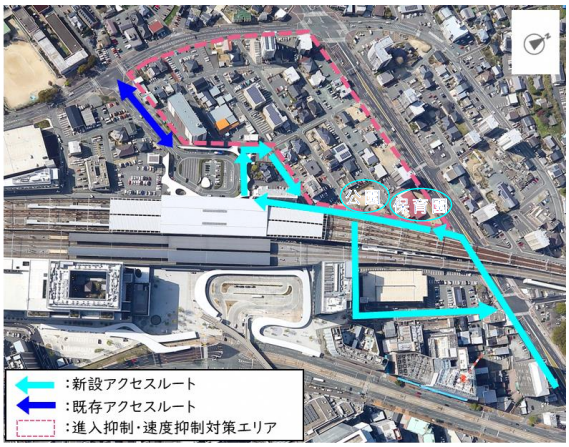
＜再整備の考え方＞

「将来にわたり誰もが安全で快適に行き交える駅前広場」

を目指し、次の方針で再整備を進めます。

①流入交通の分散

- 新幹線口駅前広場北側からのアクセスルートを新設し、広場への流入交通量を分散します。
- 再整備に伴い、アクセスルート周辺の住宅地域では、広場への流入交通の分散に伴う交通量の増加が考えられるため、進入抑制・速度抑制などの安全対策を今後検討します。



アクセスルートの新設

② 需要に応じた一般車乗降場の増設・短時間利用促進

・送迎のための一般車乗降場には、一定時間を超えると退出時に有料となるゲート方式を採用します。

③ 流入交通の低減・目的外利用の抑制

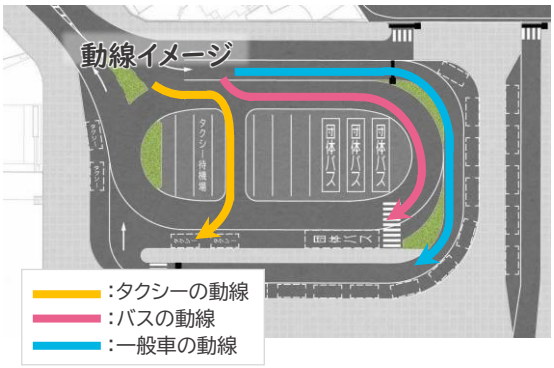
・目的外利用が多く、渋滞発生の要因となっている一般車整理場を廃止します。

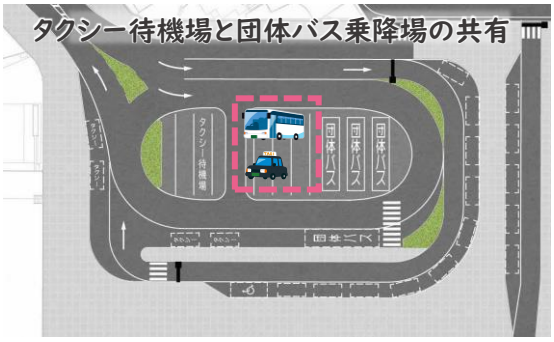
④ 各交通動線の分離

・団体バス・タクシーを内周、一般車を外周として可能な限り動線を分離します。

⑤団体バス需要への柔軟な対応 乗降場位置の見直し

・観光・修学旅行シーズンと平常時で、大きく変動する団体バス需要に柔軟に対応できるよう、タクシー待機場と団体バス乗降場を共有します。





⑥現在の駅前広場の良さを継承

・ワークショップ等で多くのご意見をいただいた、「安らぎのある待合いの空間」や「居心地良くくつろげる安全な空間」、「にぎわいを創出する空間」といった、現在の駅前広場の良い部分を継承していきます。
・これを踏まえ駅舎に近い空間は、『憩いと交流の空間』として整備を行います。

役 割

利用者を出迎える熊本らしさのある空間

熊本の玄関口として利用者を出迎え、熊本らしさを発信する空間とします。

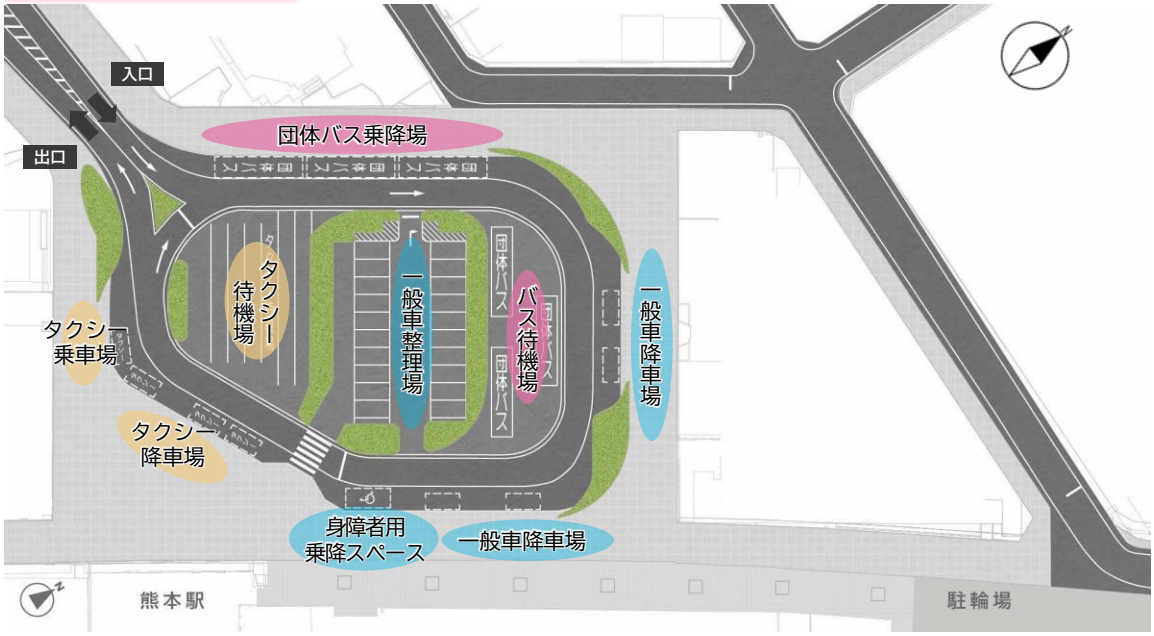
安らぎやにぎわいを感じられる空間

普段は安らぎ・落ち着きが感じられ、イベント時はスペースを活かしマルシェ等が開催できるような空間とします。

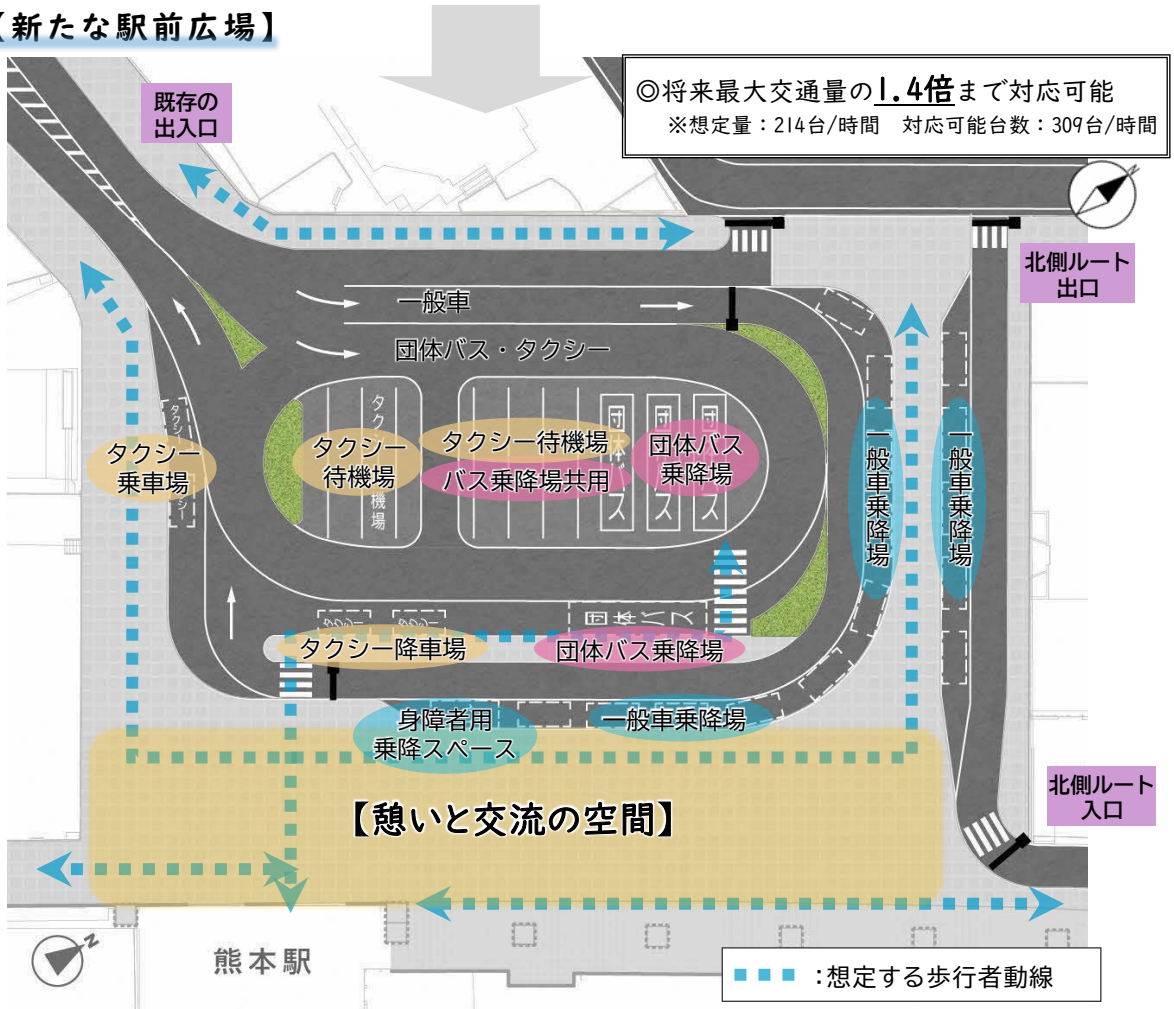
4 新幹線口駅前広場の再整備計画

熊本駅新幹線口駅前広場の再整備計画の考え方に基づいて新たな駅前広場を計画しました。さまざまな交通問題に対応しつつ、これまでの駅前広場の良いところを継承しました。

【現在の駅前広場】



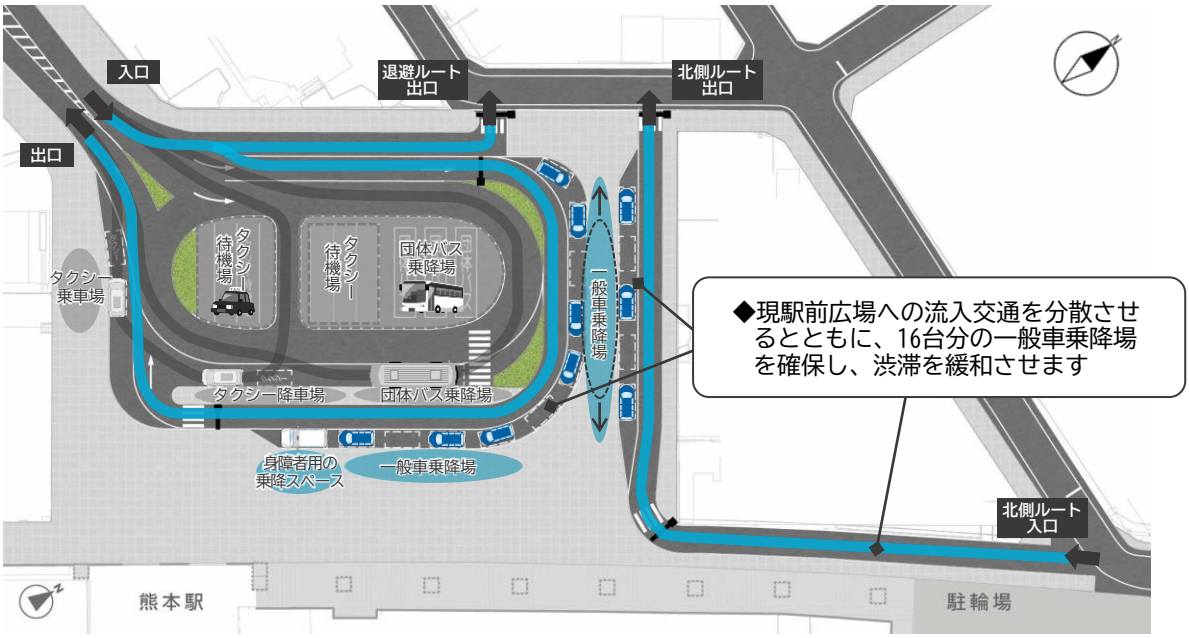
【新たな駅前広場】



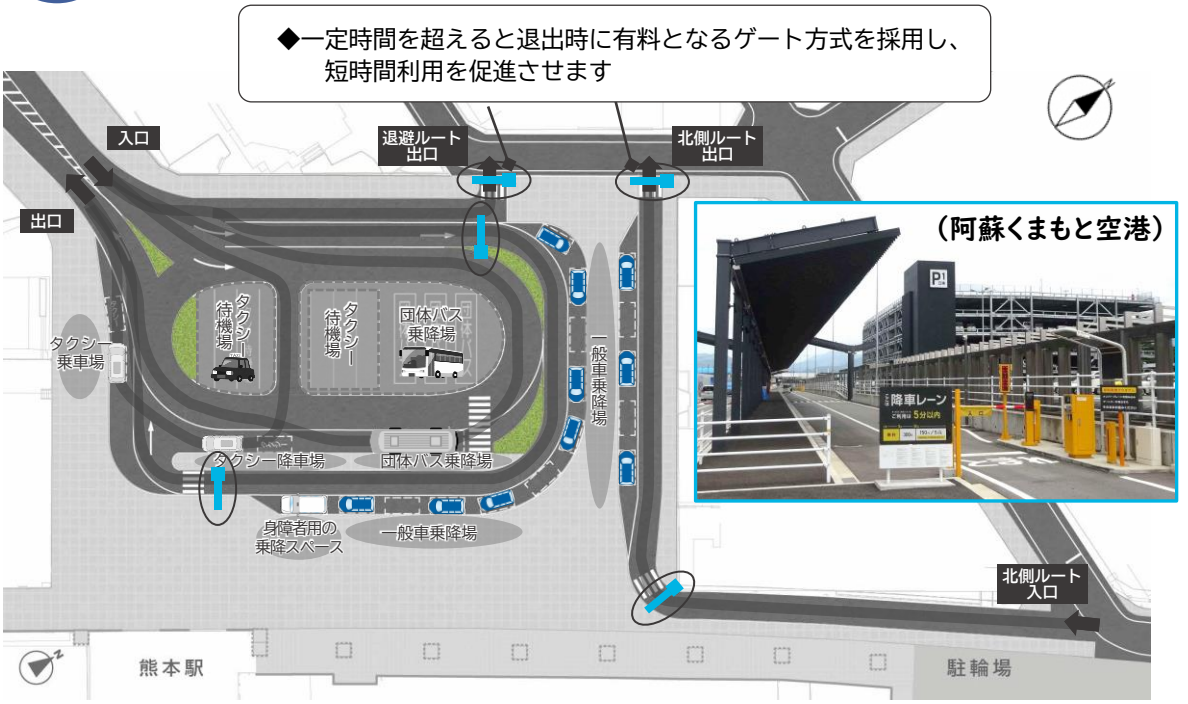
4-1.交通対策について

熊本駅新幹線口駅前広場におけるさまざまな交通問題の解消に向け、再整備計画の考え方に基づいて実施する交通対策の詳細は、以下のとおりです。

対策1　北側からのアクセスルート新設

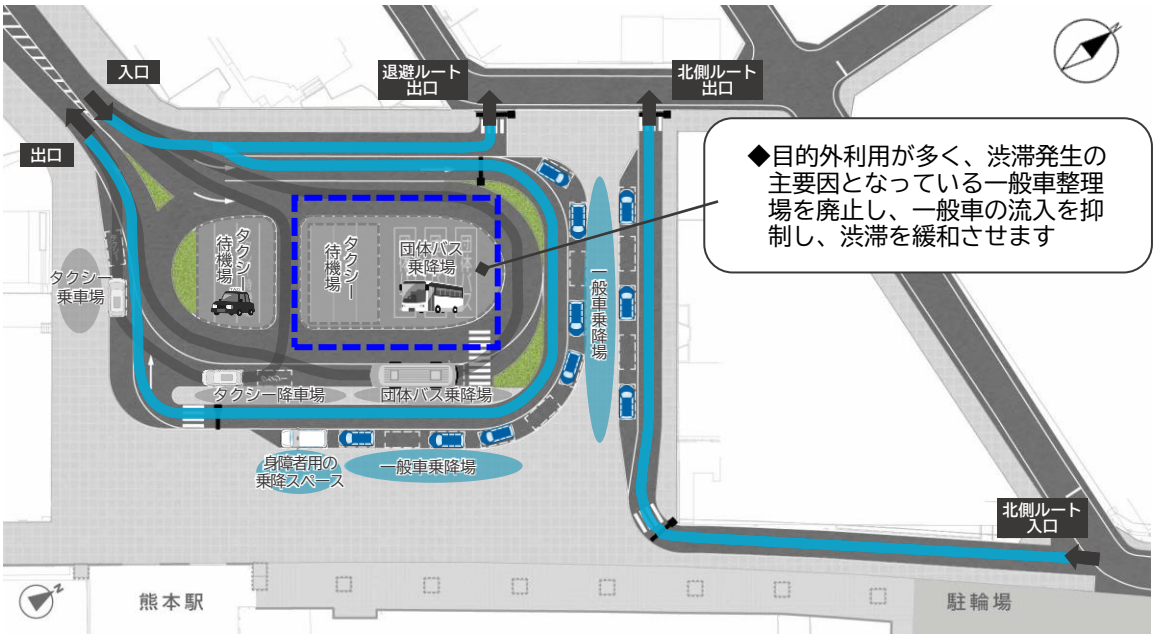


対策2　一般車乗降場の増設とゲート方式の導入

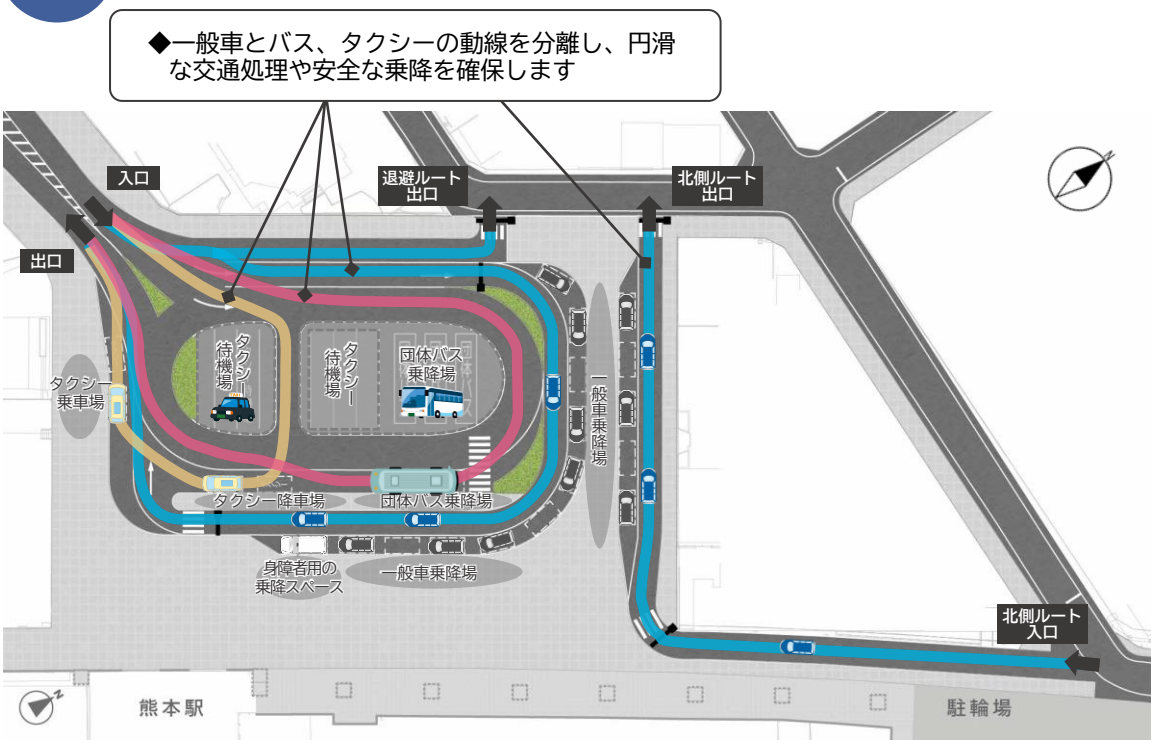


4-1.交通対策について

対策3 一般車整理場の廃止

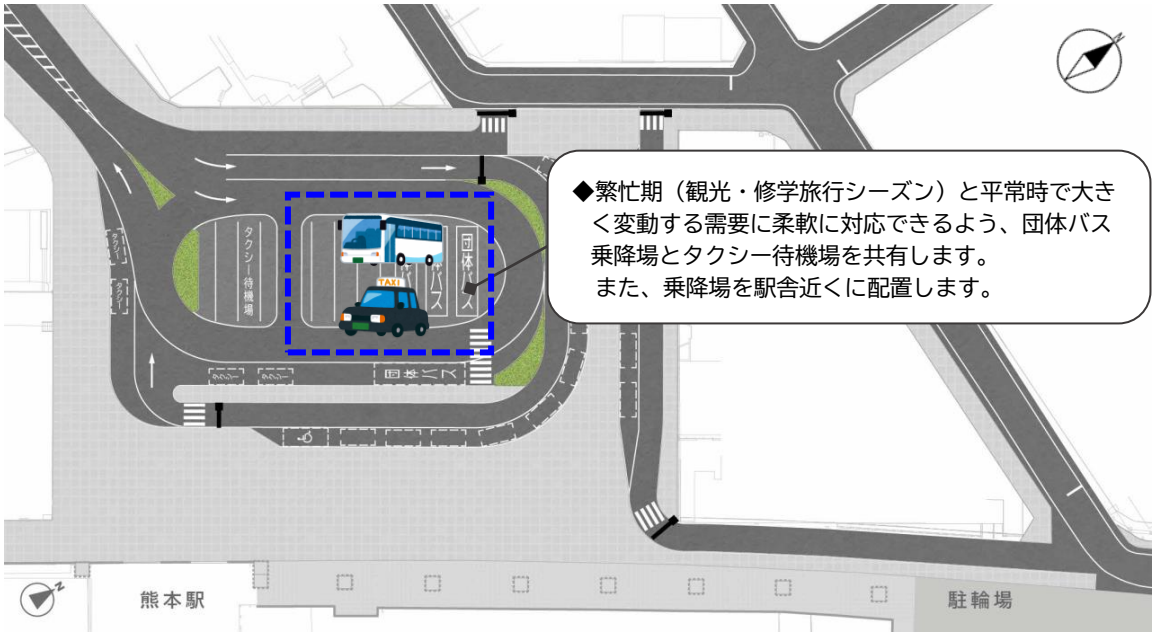


対策4 各交通動線の分離



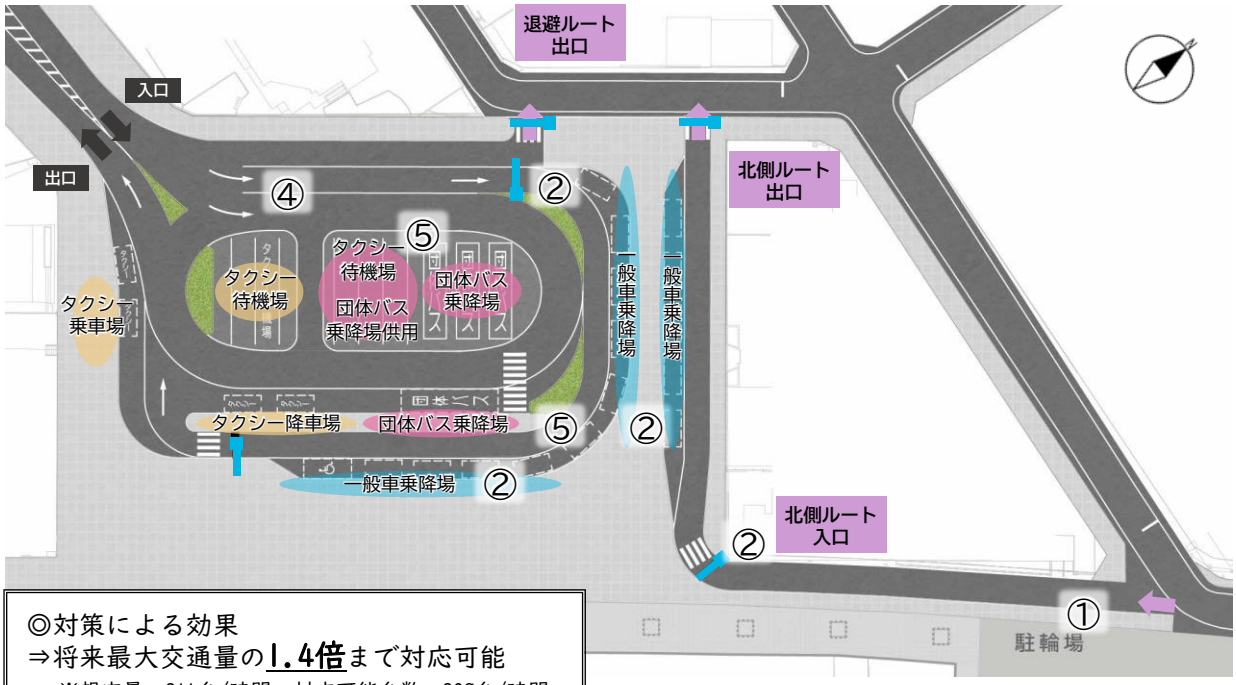
4-1.交通対策について

対策5　団体バス乗降場とタクシー待機場の共有・乗降場位置の見直し



◆繁忙期（観光・修学旅行シーズン）と平常時で大きく変動する需要に柔軟に対応できるよう、団体バス乗降場とタクシー待機場を共有します。
また、乗降場を駅舎近くに配置します。

【対策後の駅前広場】

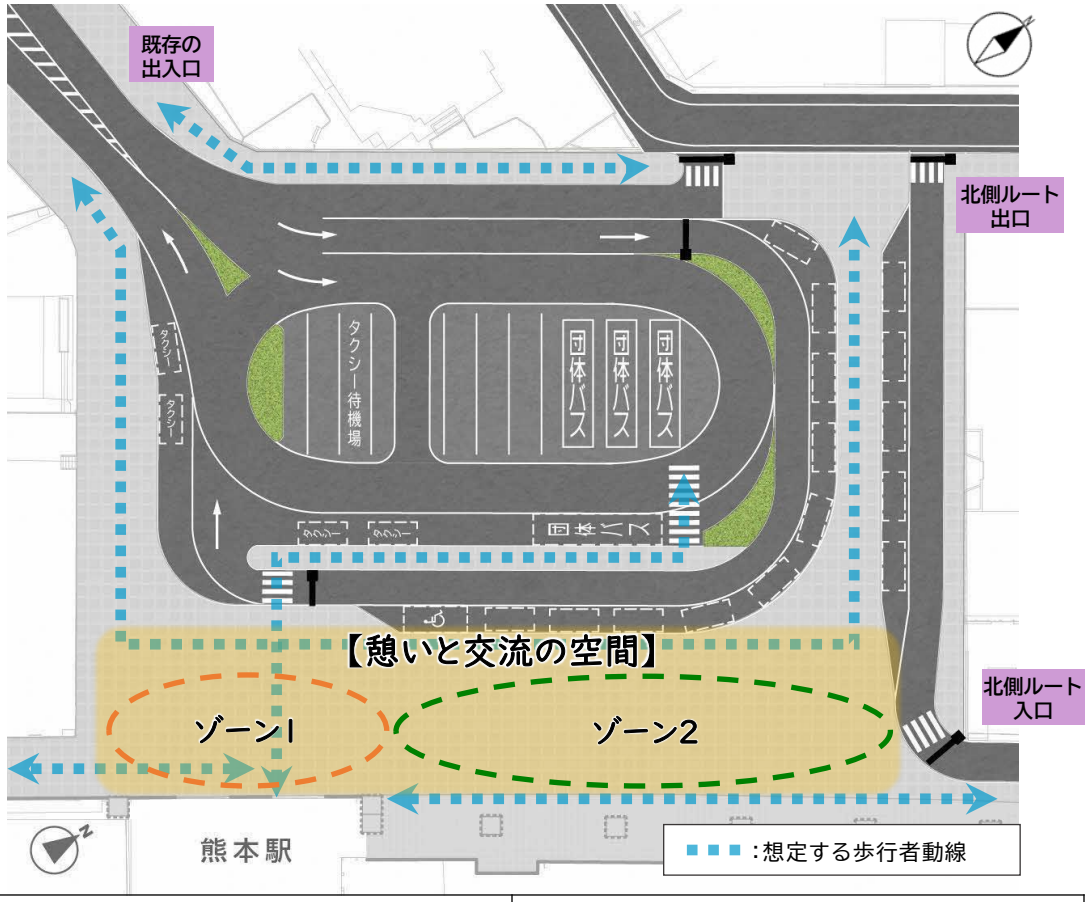


◎対策による効果
⇒将来最大交通量の**1.4倍**まで対応可能
※想定量：214台/時間　対応可能台数：309台/時間

4-2.駅前広場の空間利用について

駅前広場の空間利用については、 広場利用者アンケート調査や事業者ヒアリング、駅前広場改修に関するワークショップ、再整備案に関するアンケート調査などで市民の皆様からご意見をいただき、整備方針を『これまでの駅前広場の良いところを継承する』こととしました。

その中で、駅舎側の空間を『憩いと交流の空間』と位置付け、2つのゾーンに分けて整備を行います。



ゾーン1	ゾーン2
利用者を出迎える熊本らしさのある空間 熊本の玄関口として利用者を出迎え、熊本らしさを発信する空間とします。	**安らぎやにぎわいを感じられる空間** 普段は安らぎ・落ち着きが感じられ、イベント時はスペースを活かしマルシェ等が開催できるような空間とします。

駅前広場の良さを継承した空間形成として、【憩いと交流の空間】を中心に次のような施設や空間を新たに整備します。

情報発信機能	待合いのスポット	多様な使い方ができる空間	緑を感じられる空間	快適な移動空間
来訪者や地域住民へ向け様々な情報を発信。	熊本市民にとって愛着のあるおてもやん像等を分かりやすい場所に配置。	固定のものを配置せず、待ち合わせる、安らぎ滞在する、イベントを開催する等多様な使い方ができる空間。	万日山や花岡山の緑が望める、緑を感じられる空間。	駅から乗降場までの歩行者動線には誰もが安全に通行できるよう適宜屋根を設置。

5 これまでの検討経緯

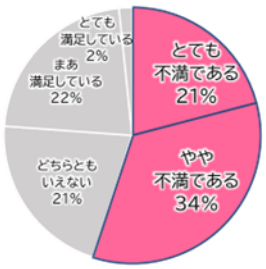
●アンケート調査

これまでに熊本駅周辺の地域住民や駅利用者を対象にアンケートを計３度実施しました。アンケートでは、駅の利用目的や駅前広場の利便性、駅前広場に求めるものなどについて意見を伺いました。

集計した結果、一般車降車場の不足や交通渋滞の発生などに不満を感じていることや駅前広場に円滑な交通機能（渋滞の解消）や乗り換えの利便性向上、快適な移動空間、待合のスポット、多様な使い方のできる空間を求める意見をいただきました。

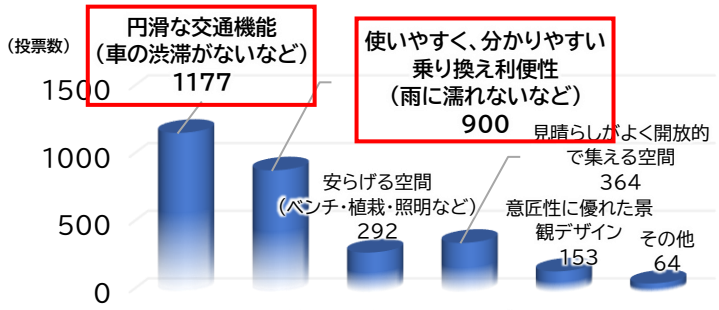
また、熊本駅周辺の関係事業者に対しても駅前広場の利便性についてヒアリングを行い、一般車とバス・タクシーの動線分離、バス乗降場の不足、渋滞の解消などの意見をいただきました。

【一般車の乗降について：R2年度】N=1,618

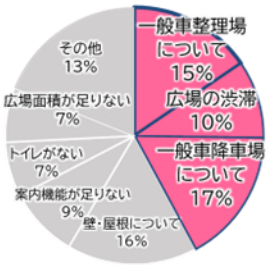


55％が不満を感じている

【駅前広場に求めるもの：R2年度】N=1,618



【不満に感じている事：R4年度】N=349



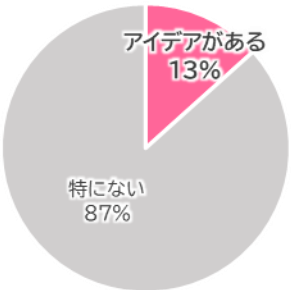
4割以上が一般車に関する不満あり

【事業者ヒアリング】

バス・タクシー事業者

- 一般車とバス・タクシーの分離
- 歩行者と接触事故の危険がある
- バスの乗降スペースの確保

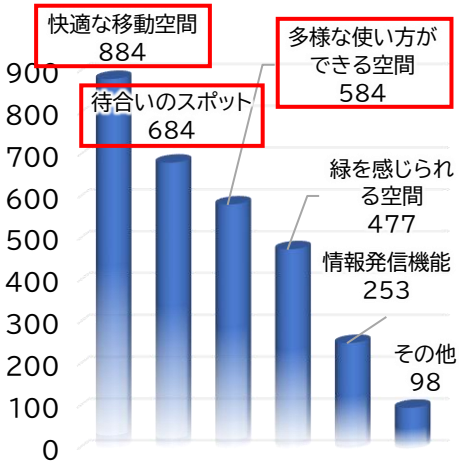
【交通対策について：R6年度】 N=1,619



一般利用者

- ゲート方式、動線分離は良いアイデア。
- 広場内は一般車進入禁止。一般車は北側ルートのみ。
- 一般車進入禁止としバス・タクシーのみにする。
- バス、タクシーは白川口。新幹線口は一般車専用にする。

【憩いと交流の空間に期待するもの：R6年度】N=1,619



●ワークショップ

令和５年度に熊本駅周辺の地域住民・駅周辺事業者・駅利用者など約３０名に参加いただき熊本駅新幹線口駅前広場改修に関するワークショップを計３回実施しました。

ワークショップでは、これまでの新幹線口駅前広場の良い部分を継承することや駅前広場に『使いやすさ』『安全・安心』『快適さ』『楽しさ』を求める声をいただきました。

・屋根があり、雨天時に使いやすい
・デザインがシンプルでわかりやすい
・歩くスペースが広く、ペットの散歩もでき安心する
・ベンチ等のくつろぎの場があり快適である
・駅前広場周辺の案内図等、情報発信の設備があるとより良くなる

ゾーン１

利用者を出迎える熊本らしさのある空間

熊本の玄関口として利用者を出迎え、熊本らしさを発信する空間とします。

ゾーン２

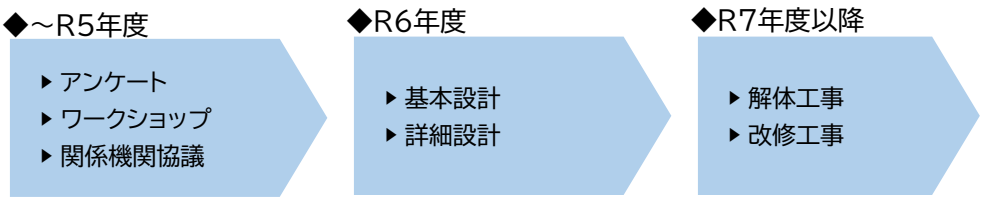
安らぎやにぎわいを感じられる空間

普段は安らぎ・落ち着きが感じられ、イベント時はスペースを活かしマルシェ等が開催できるような空間とします。

6 整備スケジュール

熊本駅新幹線口駅前広場の再整備は、一般車やバス、タクシーなどに駅前広場をご利用いただきながら進める必要があります。従って、関係機関、関係事業者の皆様等との協議を密に行い、ご理解・ご協力をいただきながら整備スケジュールを立て、進めていきます。

●整備スケジュール



令和６年度に熊本駅新幹線口駅前広場再整備計画（本計画）を策定するとともに、駅前広場の基本設計・詳細設計を予定。

令和７年度に現在の駅前広場の撤去・改修工事に着手し、令和８年度以降の完成・全面供用開始を予定。